

第4章 地盤沈下

第1節 序 説

水準測量の結果、現在、本県において地表の変動が明らかであり、地盤沈下現象のみられる地域は、仙台平野部では仙台市、名取市、岩沼市、多賀城市、塩竈市及び利府町、大崎平野部では古川市、気仙沼・本吉地域では気仙沼市である。

これらの地域のうち、仙台市、名取市には、地盤沈下観測井及び地下水位観測井を設置して常時監視を行っており、また、岩沼市、多賀城市、利府町及び気仙沼市には、地下水位観測井を設置して常時監視を行っている。

地盤沈下が最も顕著であった仙台市東部苦竹地区については、昭和49年に宮城県地盤沈下防止対策要綱により、地下水の採取を抑制するための地域指定を行い、各種用途の揚水の削減指導を行ってきたが、さらに、昭和50年には、この要綱指定地域を含めた仙台市東部地区と、多賀城市及び七ヶ浜町の一部地区について工業用水法に基づく地域指定が行われ、工業用地下水の揚水規制が実施され、現状では地盤沈下は鈍化の傾向にある。

これらの指定地域以外の地域でも、地盤沈下は復元不可能の現象であることにかんがみ、現在地盤沈下が進行している地域及び今後地盤沈下の発生が予想される地域については、常時監視体制の整備を行うとともに地表の変動のは握に努めることが必要であり、さらに、地下水障害の状況によっては、早期に県地盤沈下防止対策要綱による地域指定を行うなどにより、地下水利用の適正な指導を行っていくことが必要である。

このため、県全域について「地盤沈下のみられる地域」、「地盤沈下の恐れのある地域」、「地盤沈下の恐れのない地域」の三つに地域を類型化し、その類型ごとに環境保全水準を定め、環境容量を設定して、地盤沈下の発生を防止するよう総合的かつ計画的に環境管理を行うこととする。

地盤沈下の地域類型に当たっては、地盤沈下の条件となる地下水と地層の現況に基づいて類型化することが望ましい。しかし、現状では、これらについて十分な科学的知見がないため、本計画では、地下水については地形と地質を基に地下水盆（地下水域）を設定し、地層については表層地盤を中心に軟弱層（泥炭層、粘土層、シルト層等）の分布をは握し、これらをもとに、地下水揚水による地盤沈下の可能性等について検討し、地盤沈下の地域類型化を行うこととする。

なお、設定した地下水盆による区域以外の地域については、山地または丘陵地等を主とする地